

## 第4章 地理認識

### はじめに

本章では、イエメンを中心とした一三世紀の世界をラスール朝がどのように認識していたのかという点に着目する。イエメン内部の様々な地域とインド洋周縁部の諸港が宮廷への食材供給元として機能していたことが、第一章と第三章で確認された。世界大のネットワークと地域内ネットワークはイエメンで交錯し、多様な食材をラスール朝宮廷へもたらしたのである。こうしたネットワークにおいては、第五章と第六章で見られるように、宮廷に仕えた多様な人々が食材の供給や分配に携わっていた。これらの検討によって、宮廷食材に関わる人々や交易路の状況が詳らかになるだろう。しかし、このような物理的な側面だけではなく、往時の人々の地理認識という心的な側面をも考察することが、宮廷食材をめぐる世界をより多角的に理解するうえで必要と考える。

そのためにまず、『知識の光』や『アフダル文書集』に含まれる軍や使節、ラクダ引きへの支払いに関する記事や『南アラビア地誌』所収のイエメン内部の諸都市間の行程に関する記事を出発点として、諸史料の記事と比較・検討を行うことで、マッカ巡礼道を中心とした南西アラビアの諸道の状況を詳らかにする。そして、都市間の移動に要した日数（行程日数）と軍やラクダ引きへ支払われた給与や賃料との間の相関関係の検討を通して、ラスール

朝の官僚が行程日数の認識を有したうえで政治的自然的な条件を加味して支給額を決定していたことを示す。さらには、『ムアイヤド帳簿』所収の一七点の図のうちイエメン模式図（口絵図1・2）と行程日数を比較し、ラースール朝の地理認識の限界を考察する。

本章の検討は、同時に、イスラーム地図学研究に一石を投ずるものとなる。これまでのイスラーム地図学研究では、古代ギリシア由来の地図やバルヒー学派（The Balkh School）の地図を収集・整理し、その情報の伝達の状況を探るといった、地図という物質そのものの検討が主であった。一方で、地図が何を表象しているのかという点については注意を払われてこなかった。そうしたなかでピントは、近年、地図の向こう側に潜在的に横たわる情報の重要性を指摘し、ムカッダスィー（al-Muqaddasi）（d. after 380/990）やピリ・レイス（Piri Reis）（d. 961/1554）の地図などを対象に分析を重ねている。しかし、地図と他の文字史料の情報を比較することで往時の地理認識を探るという視座は、未だ見られない。

## 1 史料と距離単位

### (1) 史料

本章において検討の要となる三つの史料について、特に説明を加えておく。

一つ目が、『知識の光』所収の、ラースール朝下の交通に関連する一四点の記事である。<sup>5</sup> これらの記事では、軍や使節、ラクダ引きが二都市間を移動する際に要する経費や、ラースール朝が所有する船を貸し出す際の賃料が提示されている。

二つ目が、『アフダル文書集』である。総計一四七点の記事のうち、イエメン内部の交通に関連する記事を二点見つけることができる。<sup>6</sup>このうち『マルハラと距離に関する覚え書 (*Dhikr al-marāḥil wa al-masāfāt*)』<sup>7</sup>は、イエメンの諸地点間の距離をまとめたもので、ムアイヤド一世とムジャーヒド、アフダルの三人のスルタンが収集・実測した情報をもとにして見られる。<sup>8</sup>城門や広場、モスク、マドラサ (*madrasa*) を起点あるいは終点とする行程が多く挙げられている点が特徴的だが、都市間の距離を示したものは少なく、本書の目的からは逸れる。また *Arḍ al-ḥamā* は、軍の移動経費記事と見られ、『知識の光』と多くの情報を共有しており、『アフダル文書集』が『知識の光』を踏まえて執筆されたものであったこと、すなわち、『知識の光』に含まれるような情報が時を超えてラッセル朝宮廷において共有されていたことを示唆する。『アフダル文書集』には他にも、ラッセル朝下の地理に関する記事が散見するが、先行する地理書の要約であったり、地理座標に関する記事であったりと、本章における検討に直接用いられるものではない。なおいづれも、桁が大きい数字を表す際には、特殊な記号を用いている。読解に際しては、『知識の光』校訂者ジャーズィムが編集したアラビア数字との対応表を参照した。<sup>9</sup>

三つ目が、一三世紀初頭に南西アラビアを旅したイブン・アルムジャーウィルによる『南アラビア地誌』のうち、イエメンにおける様々な交通路の行程に関する記事である。イブン・アルムジャーウィルは後述する独自のファルサフ (ファルサフイムと本書では略記) を用いて、都市間の距離を表している。

## (2) 距離単位

これらの史料では、一時間の歩行距離を意味するファルサフやアラビア・マイルと呼ばれるミール (*mi*)、マルハラ (*marḥala*) といった様々な単位が、都市間の距離あるいは移動に要する時間を示すために用いられている。ヒンツによれば、一ファルサフはおよそ三ミール、あるいは一〇〇〇バー (*bar*)、あるいは六キロメートルに相当す